

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102923		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド学園前・登美の森		
所在地	〒631-0006 奈良県奈良市西登美ヶ丘7丁目13-31		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaihosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の尊厳、入居者第一の精神をモットーに全職員が心がけており、考える介護の実践を目指して日々努力しています。施設の立地場所は環境にも恵まれ、地域の方々との交流もしやすいです。家族様のご来訪もほぼ毎日のようにありますので、アットホームな雰囲気作りができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し、近くに小学校や公園があり、子供たちの元気な声が聞こえ、利用者はそれらを楽しむように穏やかな生活を送っている。ユニットごとに職員が手作りした料理はおいしく、利用者として育てた野菜が食卓に彩りを添えている。木立や池が望めるリビングには、暖かな光が差し込んでいる。室内には音楽が流れ、ソファで寛ぐ利用者には心地よい空間になっている。職員は「その人らしい生活」「プロのいる家庭」を目指し支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(ユニット名：学園前)

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下のとおりである。 ①自分らしい安心できる生活をお手伝いします ②入居者の尊厳を守ります ③地域との連携に努めます ……玄関に掲示。 利用者優先のケア。「プロのいる家庭」を目指している。	前項の法人理念の共有と実践に努めている。「プロのいる家庭」を目指すにあたり、できるだけ家庭の雰囲気を保ちつつ、介護はプロでいようとスタッフは日々切磋琢磨されている。また、「業務優先ではなく利用者優先」との目標を持ってケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏祭りや草引きなどの行事に参加している。また、近隣の保育園、幼稚園と定期的に交流を行い、ふれあっている。散歩に出た時などには、近隣の人と挨拶したり、公園で子供たちとふれあっている。	自治会自体があまり活発ではないという地域性だが夏祭り等に参加したり幼稚園、保育園との交流、音楽療法等のボランティアを受け入れている。	地域との連携に向けて前進し始めている。近隣の方を行事に招く等の試みから始め地域とグループホーム相互の関係の構築がさらに密接な関係になるように期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所に認知症介護で困られている方がおられるので、相談や見学を受け入れ、役立つよう心掛けている。また、運営推進会議で、情報を提供できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター、民生委員、自治会、家族代表などが参加。事業所の取り組みを報告し、家族の思いを伝えと共に、防災などについて話し合っている。	運営推進会議を報告と情報公開の場と捉え2ヶ月に1回開催に向けて努力されている。今年度3回目からは自治会長の参加も実現した。	運営推進会議では報告と情報交換のみならず、さらに事業所の「気づき」から課題や目標の策定等、一歩進めた取り組みと共に全員で作成した自己評価を活かした実践を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市に事業所から現況報告するだけでなく、本社から市に対して積極的に働きかけている。また、運営推進会議の開催案内、議事録を持参し、ホームの現況報告を行っている。	管理者は市にホーム便り、運営推進会議の案内等を持ち、報告等の為に訪れている。議題によっては運営推進会議に市担当者の出席を望み案内しているが実現しなかった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明、教育している。玄関掲示にて身体拘束ゼロを掲げている。	新任時に研修し以後職員間でチェックし合い、また連絡帳等に事例を載せ、閲覧し確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明、教育している。事業所内で虐待行為をしたことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明、教育している。まだ適用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、利用契約書等を文書で示し説明している。説明に当たっては、一方的にならないように、理解いただけたか、疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き、電話相談窓口も玄関にて掲示している。職員は、家族面会時に意見、希望などを聞き取るよう努め、記録している。また、入居者のケアの変更や状態変化については、その都度管理者から電話などで相談し、意見を聞いている。	「家族カンファレンスノート」「気づきノート」等で利用者、家族の意見を受け止め、それを全体会議等で共通の認識として受け止め、反映させようとしている。	法人の異動やユニット間でケアのための移動と家族の面会時にスタッフの顔ぶれが変わることが多い。利用者や家族の不安を少なくする為にも異動報告やスタッフ紹介など小まめな対応が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との個別面談、ユニット会議で意見を取り上げ、運営に活かしている。また、意見箱を設置し、誰もが記入し、投函できるようになっている。	管理者も職員と同様に現場で働き、職員の痛み等何でも言って貰えるよう努力している。現場職員もまた管理者が自分たちと同じ仕事をしていることによって信頼し、何でも相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員等が参加する会議を月に1回設けており、現場の状況を細かく連絡、報告説明を行っており、職場環境等の不具合の発生には、早急な対応を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中段階研修、サブリーダー研修、リーダー研修を順次行っている。また、認知症介護実践者研修、管理者研修、リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に計7か所、系列法人で1か所のグループホームがあり、研修などで交流している。また、運営者は、グループホーム運営協議会を立ち上げ、他のグループホーム同士の交流の場を積極的につくって、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なことを聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、家族の困っていること、不安なことをよく聞くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談がある時は、ほとんどがグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでよいのか、1歩引いて観るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付けを助けてもらったり、植物の水やりを助けてもらったりしている。また、折り紙の折り方、食事のメニューなどを教えてもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、1ヶ月に1回は、スタッフからの一言通信(様子をまとめたもの)、写真、フレンド便りを送付し、関係維持、向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆に、家族と過ごす希望者には薬や健康状態を説明し、支援している。また、お友達の訪問やお便りをもらっている。毎月、家族と墓参りをしておられる方もおられる。	各利用者の家族等の面会日には、話を聞く機会を設け連携を深め、関わり合いを大切にしている。御家族や友人等に電話をかける方もいる。	利用者の入居前の生活歴等すべてを把握するには、時間的にも十分とはいえない。入居後、日常生活の会話のなかで利用者から直接聴き取り、また家族からの情報を共有し、馴染みの人や場の関係継続につなげる支援を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時に車椅子を押してもらったり、団らんを提供できる環境をつくることに努めている。利用者の中にスタッフが入るように努め、うまくコミュニケーションが取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ、退居された方がいるが、定期的に見舞いに伺った事例がある。特養など、他の介護施設に移られた場合も、お顔を見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の日々の気づきを個別にノートに記入し、6ヶ月ごとの見直しの際に、アセスメントに反映している。ご本人の意向を拾い出し、日々のケアに活かしている。	「気づきノート」で利用者を把握しようと努力し、職員間で共有する事によって最善の支援に繋げていこうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族と本人に面談して、生活歴や希望を十分にアセスメントし、その人らしい暮らしの提供が行えるよう、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の方の過ごし方や、心身状態を職員が把握し、ケア会議等で連絡をとりあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からの入居者の意見を聞き、家族カンファレンスを行っている。それらに加えて、職員が意見やアイデアを出し合って、介護計画を作成している。	家族とのやり取りを「家族カンファレンスノート」に記入し職員で共有している。医療面が充実した計画書になっている。	事業所の理念である「利用者優先」を進めるためにも「家族カンファレンスノート」等を活用し利用者の生活歴、希望等を把握して「利用者の生きることを支援するための」計画作りを進められるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日常の暮らしの様子や、バイタル値、排泄状況、食事量、往診時の看護記録などを記録している。日常の変化、気づきを個別ケアに反映させるようケア会議にて検討を重ねている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用者が、慣れた環境に入居したいと、グループホームに入居された例がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1ヶ月に1回の音楽療法のボランティアが来て下さっている。最寄りの交番、消防に連携を依頼している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携のかかりつけ医が2週間に1回往診に来て下さっている。整形外科や歯科受診も、本人の希望により支援している。	事業所は重要事項説明書等で利用者や家族の希望するかかりつけ医を希望できると説明しているが、入居者全ての方がこちらのホームドクターをかかりつけ医にされている。個人のかかりつけ医を受診する場合は家族の送迎が必要である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の事業所と連携し、週1回の看護師の訪問があり、健康管理、職員へのアドバイスももらったりしている。変化のある場合は、連絡をとり、連携している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を交えてのホームの往診医や看護師が、病院の担当者と現況や予後話し合い、早期の退院を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ全体で、重度化や終末期に対応できる支援体制をつくっている。重度化対応指針も策定しており、ターミナルケアも2例経験している。	法人は医療行為を伴わない場合はターミナルまで支援するとの重度化指針を作成している。ホームドクターも協力的で家族の意向を大切にしている。状態に合わせて系列の有料老人ホームや病院を紹介している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルや役割や連絡先を職員が日頃から、見える場所に掲示している。また、ケア会議などで研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	非常警報ボタンを設置しており、5月と11月に避難訓練を実施している。運営推進会議で、防災について話し合いをしており、地域の協力をお願いしている。	入居者も参加して日中、夜間を想定した避難訓練をしている。母体が法人ということもあり、いざというときは別の所に避難できるといった協力体制が取れている。今後スプリンクラーを設置予定である。訓練時消防署へ指導要請するも実現できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性、人格を尊重した言葉かけ、対応をし、入居者に共感するようにしている。また、ホーム内でも接遇マナーの研修を実施している。	職員は接遇マナーについては、新人研修と自己研鑽で対応している。利用者一人ひとりに対して尊厳や誇りを尊重した言葉使いや声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望やレクリエーション内容、外出の希望等を聞きながら進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務時間は、後で取り戻せるとの共通認識から、入居者優先として、入居者のペースに合わせている。個々のライフスタイルを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪形や服装にしているが、いつも同じにならないよう声かけし、支援している。外部の訪問理美容を利用し、外とのつながりも心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も聞きながらメニューを考え、ユニットごとにすべて手作りの食事を提供している。また、一緒に準備し、職員全員で楽しく会話しながら食べている。	職員がメニューを考え、時には母体の特養の栄養士にカロリーやバランス等を見てもらいながら職員が手作りしている。利用者もお盆を拭いたり、育てた野菜を収穫して一緒に食事を楽しんでいる。また、外食や出前を取って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事がとれるよう、個人に合わせた食事支援を工夫している。一人ひとりの、一日の食事量や水分量が把握できるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯みがき誘導を行っている。痛みや治療が必要な場合には、家族に連絡をとって、受診の支援をしている。入歯は、夜間に消毒液に浸けて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表をつくり、昼夜のトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導は、さりげなく行っている。特に失禁時には、周囲の方にも気を配り、声を出しての促しは避け、さりげなく誘導している。	現在リハビリパンツ使用の方はおられるが、おむつ使用の方はいない。トイレ誘導等にも気を配り、排泄表等で各利用者の排泄パターンを把握しトイレに行ってもらえるよう誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者が多いので、果物、野菜の多い食事提供を心掛けている。トイレに誘導して、排泄の習慣をつけていくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ、温泉気分を楽しみながら入浴している。職員と1対1の対応で、ゆっくりと1人30分程をかけて入浴して頂いている。入浴拒否の方もおられるが、1日かけて働きかけ、気分のよい時に入浴して頂いている。	2日に1回の予定で午後3時くらいから夕食前(6時)までの間に入浴している。利用者にゆっくり時間をかけて楽しんで貰えるよう努力している。体調等が悪く入浴できない方には清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、掃除、食事作り、体操、レクリエーションなど、日中の活動を通して、個々にあった生活のリズムを作るよう配慮している。必要なときには、職員が個室に付き添い、ゆっくりと話しながら入眠に導いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容の勉強をしている。薬剤師や家族から説明を受けた内容を個別に記録し、医師の指示通りに服薬してもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯や取り入れ、食事の手伝い、買い物等は、能力に応じて、役割分担している。書道の好きな人、手作業の好きな人に材料を用意し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩やスーパーへの買い物、及び季節に応じてピクニック、食事会、音楽会を開催し、参加してもらっている。また、長距離の散歩の希望の方がおられ、1対1で出かけている。	お花見、薔薇園等に出かけた。近隣では学校の周りや公園等を散歩。歩けない方は車いすを押したり、また車で出かけたりにしている。今後スーパーへ買い物に行こうと考えている。	職員間で話し合い工夫し日常的な外出支援がなされており、それを個別ケース記録に残して家族に説明し、確認できる仕組み作りを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が希望の方には、財布をお持ちいただき、御小遣いノートと一緒に記入して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける希望には、呼び出しをして、受話器を手渡している。かかってきた場合は、受話器を手渡してゆっくり話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なリビングで自由に過ごせるよう、ソファ、椅子を置いて場所を確保しており、気のあった方々で楽しく過ごされている。	南向きのリビングに暖かな光、心地よい音楽でゆったり過ごされている。壁には利用者が出かけた時に撮った写真や園児たちと交流した時の写真が飾られており、どれもはちきれんばかりの利用者の笑顔が印象的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファ、テーブルを各所に置き、入居者には思い思いの場所で、居心地良く過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や鏡台、枕、自身が描いた絵など、これまで使っていた物や、本人が大切にしていた位牌、音楽CDなど、思い出の品々が持ち込まれている。	利用者の希望によっては畳を敷き和風に設えている。利用者の思い出の品物や馴染みのものを持ち込んで心地よく暮らされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室等、ドアに絵入りや大きな文字にて表札を掲げている。		